鶴岡工業高等専門学校	_一般科目	開講年度	平成30年度 (2018年度)

学科到達目標

総合科学科は、国語・英語・ドイツ語・数学・理科・社会・芸術・保健体育等の、広い分野へわたる教科を担 当する教員の組織です。高専卒業後、国際社会に通用する創造的技術者として自由自在に活躍するためには、学生一人一人が正確で幅広い知識と豊かな教養を身に付け、人間性を高めることが必要です。総合科学科教員は、 新たな知識を得ることを喜び、他者と異文化を尊ぶ姿勢を持つ、情操豊かで健全な市民の育成を目指します。

総合科学科が担当する授業は、一般教養科目と基礎専門科目から成り立っており、本校全学科の学生を対象とする必修科目です。一般教養科目は、生き生きとした国際感覚を持ち、他者としっかりとコミュニケートし、物 事の本質を見極める眼をもつ学生の育成を目指す科目です。学習内容は幅が広く、高等学校の授業に準じた内容 の授業から、大学の教養科目に準ずる内容の授業に及びます。基礎専門科目は、応用数学と応用物理です。全学科に共通する問題に対処できる基礎能力の育成を目指す科目です。また5年生対象の「共通選択・一般科目」や専攻科学生対象の「共通一般科目」も担当しています。なお、総合科学科教員は、全学科1・2年生の学級担任 を受け持っており、本校の人間教育の最も重要な部分を担っております。

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分
						1年				2年				3年				4年				5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後		前		後	
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
一般	必修	保健体育(5年)	0248	学修単位	1																	1				松坂 渉	
一般	必修	ドイツ語(5年)	0249	学修単位	2																	1	1			佐藤 伸浩,LUKAS RIESER	
一般	必修	語学演習(田邊)	0250	学修単位	1																	1				田邊 英一郎	
一般	必修	語学演習（阿部）	0251	学修単位	1																	1				阿部 秀樹	
一般	必修	語学演習(菅野)	0252	学修単位	1																	1				菅野 智城	

鶴岡工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	保健体育(5年)

科目基礎情報

科目番号	0248	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	_一般科目	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	1
教科書/教材	Activesports		
担当教員	松坂 渉		

到達目標

1 生涯スポーツの観点から、様々なスポーツ活動を通じて自己に見合った活動実施ができる。
2 心身の健康維持のために、習慣的なスポーツ活動を協力して計画・立案できる。
3 運動を行う環境に対して自身の役割を理解し、他者と協力して環境設営ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
1．意欲・態度	自己の健康管理のために必要な知識を理解し、具体的な取り組みを計画することができる。	自己の健康管理のために必要な知識を理解し、取り組みに参加できる。	運動を通じて、自身の健康管理意識が見られない。
2．協働・協力	心身の健康維持のために、習慣的なスポーツ活動を協力して計画・立案できる。	心身の健康維持のために、習慣的なスポーツ活動のために協力できる。	心身の健康維持のために、習慣的なスポーツ活動のために消極的である。
3．自己管理・配慮	自己の健康維持のために運動機会を設ける思考力・環境設定・安全管理ができる。	自己の健康維持のために運動機会を設ける思考力・環境設定ができる。	自己の健康維持のために運動機会を設けるための倫理観が養成できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	基本的習慣を鑑みて、自身の健康維持を目的とした生涯スポーツの実施に取り組むことができる。 さらには、集団での取り組みを基本とし、自身の体調を考慮した自己管理能力と体力の養成ができる。
授業の進め方・方法	適時種目内容に応じて適切な施設、用具、服装を使用して、毎時間の目標に沿った形で進めることとする。
注意点	特に注意す可き評価対象となるべき行為 ・理由なき遅刻（私的な都合は理由にならない） ・無断早退（どんな場合でも本人が教員に報告してから早退すること） ・授業に関係ない電子機器の操作（単位認定の可否有）

事前・事後学習、オフィスアワー

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	選択種目（4種目から選択）	・各種目のルールを守り、安全な環境設営ができる。
		2週	1)サッカー／ソフトボール	・仲間と協力して行動できる。
		3週	2)バドミントン／バスケットボール	・実戦に向けた基本的技術習得のための練習を実践できる。
		4週	3)ソフトバレー	・基本技能を活かし、楽しく意欲的に競技することができる。
		5週	4)陸上／卓球	・自己の能力に応じ、楽しみながらゲームに参加できる。
		6週	生涯スポーツ	＜　キーワード　＞
		7週	A：硬式テニス	・仲間との協働
		8週	B：アルティメット	・スポーツ活動における倫理観
	2ndQ	9週	C：ソフトボール	・運動計画の設定
		10週	D：ユニホック	・様々な人との協力
		11週	E：ソフトバレー（バルバレー）	
		12週	F：フットサル（サッカー）	※最後に種目に応じたレポート課題の提出を実施する。
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	3	
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
				日常の生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	

評価割合

	意欲・態度	協働・交流	自己管理・配慮	合計
総合評価割合	30	40	30	100

体育態度面	30	0	0	30
授業態度評価＆レディネス	0	40	0	40
スポーツ活動シート	0	0	30	30

鶴岡工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	ドイツ語(5年)

科目基礎情報

科目番号	0249	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	_一般科目	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	ドイツ語の時間〈ときめきミュンヘン〉　コミュニカティブ版		
担当教員	佐藤 伸浩,LUKAS RIESER		

到達目標

４年生で網羅出来なかった初級文法のうち、比較表現、再帰動詞、再帰代名詞、受動態、接続法などの理解を深める。初級文法が終わったら、自ら辞書を引き、初歩の文字テキストの読解にチャレンジできることを目指す。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	文法の知識に基づいて辞書を引き、適切な意味を見つける事ができる。	辞書は引くが、見出し語となるはずの語形を正しく導けず、語彙が発見できない。	辞書を引く意欲がない。
評価項目2	下調べの段階で歯ごたえのある文章としっかり格闘する熱意があり、予習で解決出来なかったことを授業での学習体験を、自力解決の体験とほぼ同じ質にまで高められる。	一応辞書は引くが、辞書上の意味でストップし、テキストでの意味ないように踏み込むところまで進めない。	テキストとの格闘に意義を見出せない。
評価項目3	耳で聞く努力が出来、文字テキストに食らいついていこうとする意欲がある。	文字テキストにあまり意義を感じない。	文章への関心がほとんどゼロに近い。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	初級文法の残りを仕上げる。平易な文字テキストを講読する。
授業の進め方・方法	文法説明、語彙説明をもとに文例の音読、和訳、さらに練習問題と進める。授業の最後に毎回、文法についての暗唱試験、初級文法が終わった後は授業で扱うテキストから、ある程度まとまった文の暗唱試験を実施する。
注意点	・前期開講のクラスと後期開講のクラスがあるが、毎回の授業内容については前期のみ記す。後期開講のクラスも前期開講のクラスに準ずる。 ・学修単位の授業なので、初級文法終了後はテキストの下調べをした上で授業に臨む事を求める。 ・口頭での暗唱試験は１回２点満点とし、滞り無く言えれば２点、滞ったり、教員のヒント、手助けがあって出来た場合１点、ヒントがあっても出来なかった場合は０点。なお、口頭試験の結果に納得出来ない場合は何度でもやり直しを認める。 ・期末試験2回分に 50%、暗唱試験に 20%、レポートに 10%、授業での 担当箇所の発表の評価に 20% を配分して最終評価とし、60% 以上を合格とする。 参考書：中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著：改訂版 必携ドイツ文法総まとめ．白水社

事前・事後学習、オフィスアワー

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	完了時制の復習	現在完了の用法が英語と異なる面があることを理解し、現在分詞、過去分詞の使い方等を確認する。
		2週	形容詞、副詞の比較変化	原級、比較級の表現に習熟する。
		3週	形容詞、副詞の比較変化	最上級表現に習熟する。
		4週	再帰表現	再帰代名詞の格変化を覚える。再帰動詞の使い方が分かるようになる。
		5週	受動態	受け身の助動詞としてのwerdenを理解し、動作主をぶら下げる前置詞vonとdurchを覚える。状態受動の助動詞seinを覚え、また不定代名詞manを主語とする能動文がなぜ準受動表現として使われるのかを理解出来るようになる。
		6週	接続法の作り方	法が定形動詞を分類するカテゴリーであり、直説法、命令法、接続法の３種類あることを理解し、例えば過去形は定形動詞であることを知る。４年生で覚えたmöchteの人称変化をもとに、接続法I式、II式の作り方を理解出来るようになる。
		7週	接続法の用法整理	要求話法、間接引用、非現実話法の実際を観察し、英語の仮定法の復習を兼ねる。
		8週	まとめと中間試験	初級文法のおさらいをし、習熟度の確認をする。
	2ndQ	9週	テキスト講読	事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。
		10週	テキスト講読	事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。
		11週	テキスト講読	事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。
		12週	テキスト講読	事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。
		13週	テキスト講読	事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。

		14週	テキスト講読	事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。
		15週	まとめと期末試験	テキストのおさらいをし、習熟度の確認をする。
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバリゼーション・異文化多文化理解	グローバリゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	0	0	0	10	100
基礎的能力	70	20	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鶴岡工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	語学演習(田邊)

科目基礎情報

科目番号	0250	科目区分	一般 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	_一般科目	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	1
教科書/教材	自作教材		
担当教員	田邊 英一郎		

到達目標

1 既習の文法事項を総復習し、文法知識を再び定着させる。
2 再度定着した文法知識が、英語の読み書きに運用できる。
3 再度定着した文法知識が、英語を聞いたり話したりすることに運用できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	英検2級合格に必要な文法知識を運用し、英語が読み書きできる。	英検準2級に必要な文法知識を運用し、英語が読み書きできる。	英検3級合格に必要な文法知識でさえ、英語の読み書きに運用できない。
評価項目2	英検2級合格に必要な文法知識を運用し、英語を聞いたり話したりすることができる。	英検2級合格に必要な文法知識を運用し、英語を聞いたり話したりすることができる。	英検3級合格に必要な文法知識でさえ、英語を聞いたり話したりすることに運用できない。
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	主に低学年で学習した英文法を再度総復習し、基礎的な文法知識を再定着させます。また、再定着した知識が、英語を書く、読む、聞く、話ことに十分に運用できるようになることを目指します。
授業の進め方・方法	授業の度に配布するプリントの問題を各自解いてもらいます。一定時間の後、解説と答え合わせをします。それぞれのプリントは何らかの文法項目に特化した内容ですが、全ての授業を受講すると、既習の文法項目を総復習することができます。
注意点	問題演習を行う際、ただ答えが合っていればよいと考えるのではなく、正解となる理由を自分なりに理解してもらいたいと思います。また、英語に関することで疑問な点があったときは、遠慮せずに教員に質問して下さい。英文法を体系的に総復習する機会は、おそらくこれが最後でしょう。

事前・事後学習、オフィスアワー

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	動詞と文型	英語の文は、主語、動詞、目的語、補語あるいは修飾語で構成され、これらの結びつき方に基本的に5つの型があることが理解できる。
		2週	動詞と時制	過去形、過去進行形の基本的な形式と意味が理解できる。未来を表す様々な表現の形式と意味が理解できる。
		3週	完了形	現在完了形の基本的な形式と意味が理解できる。過去完了形の基本的な形式と意味が理解できる。
		4週	助動詞	様々な助動詞の意味が理解できる。
		5週	助動詞、態	様々な助動詞の意味が理解できる。受動態の基本的な形式と意味が理解できる。
		6週	態、不定詞	様々な形の受動態の基本的な意味が理解できる。不定詞の名詞的用法と形容詞的用法の基本的な形式と意味が理解できる。
		7週	不定詞	不定詞の副詞的用法の基本的な形式と意味が理解できる。不定詞の否定語の位置が理解できる。
		8週	テスト１	問題全体の6割以上に正解できる。
	2ndQ	9週	（テスト１の返却）、動名詞	動名詞の基本的な形と意味が理解できる。
		10週	分詞	現在分詞、過去分詞の基本的な形式と意味が理解できる。分詞を用いた様々な文の基本的な形式と意味が理解できる。
		11週	比較	原級や比較級を用いた比較表限の基本的な形式と意味が理解できる。最上級を用いた比較表限の基本的な形式と意味が理解できる。
		12週	関係詞	それぞれの関係代名詞の基本的な用法が理解できる。前置詞＋関係代名詞、関係代名詞whatの基本的な用法がt理解できる。様々な関係副詞の基本的用法が理解できる。
		13週	仮定法	仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な形式と意味が理解できる。仮定法を用いた様々な表現の基本的な形式と意味が理解できる。
		14週	1→13週までの学習内容の復習	授業を通じて復習したことの大部分を正しく理解し、基礎的な運用ができる。
		15週	テスト２	問題全体の6割以上に正解できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	10	0	0	100
基礎的能力	90	0	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鶴岡工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	語学演習（阿部）

科目基礎情報

科目番号	0251	科目区分	一般 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	_一般科目	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	1
教科書/教材	表現力をつける英作文（南雲堂）		
担当教員	阿部 秀樹		

到達目標

1. 適切かつ自然な英語の文章を書くことができる。
2. 自分の考えを論理的にまとめ、読みやすい文章を書くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	CEFR　Bレベルに達することができる。	CEFR　A２レベルに達することができる。	CEFR　A１レベルに達することができない。
評価項目2	CEFR　Bレベルに達することができる。	CEFR　A２レベルに達することができる。	CEFR　A１レベルに達することができない。
評価項目3	CEFR　Bレベルに達することができる。	CEFR　A２レベルに達することができる。	CEFR　A１レベルに達することができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	適切かつ自然な英語の文章が書け、自分の考えを論理的にまとめ、読みやすい文章を書くことができように、教科書の全１２章の演習を通して目標の達成を目指す。
授業の進め方・方法	各章はA（基本英文法の演習と確認）,B（和文英訳演習）,C（パラグラフ演習）から成るが、学生は各章担当の当番を決め、当番学生は全問を授業前日まで演習し、授業担当者に提出する。担当者は受講生分をハンドアウトとして配布し、それを参考にしながら授業を進める。他の受講生は予習を原則とし、問題意識をもって演習と作文力アップにつとめる。
注意点	英文和訳演習は各自の予習、取り組みによって成果が大きく分かれるので、ただ授業に出席するだけでは意味がない。授業開始時に各章の当番を決めるので、必ず出席すること。担当人数は受講人数が決まり次第決定する（例、受講生36人だと各章3人当番）。学科によってうまくいかない場合もあるが、余り不公平感がないようにしたい。

事前・事後学習、オフィスアワー

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	Introduction, 提出課題演習	ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの６０%を理解できる。
		2週	Chapter 1: Meeting new people at college	ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの６０%を理解できる。
		3週	Chapter 2: Attending classes	ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの６０%を理解できる。
		4週	Chapter 3: Pastimes	ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの６０%を理解できる。
		5週	Chapter 4: Volunteer activities	ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの６０%を理解できる。
		6週	Chapter 5: Environmental problems	ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの６０%を理解できる。
		7週	Chapter 6: Cultural differences	ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの６０%を理解できる。
		8週	Reading Week	ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの６０%を理解できる。
	2ndQ	9週	Chapter 7: Studying abroad	ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの６０%を理解できる。
		10週	Chapter 8: part-time jobs	ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの６０%を理解できる。
		11週	Chapter 9: Youth and politics	ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの６０%を理解できる。
		12週	Chapter 10: Spending holiday abroad	ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの６０%を理解できる。
		13週	Chapter 11: Job hunting	ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの６０%を理解できる。
		14週	Chapter 12: Information Technology	ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの６０%を理解できる。
		15週	Exam	演習問題に於いて６０%以上の正解率を示すことができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	

				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	10	20	0	100
基礎的能力	70	0	0	10	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0

鶴岡工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	語学演習(菅野)

科目基礎情報

科目番号	0252	科目区分	一般 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	_一般科目	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	1
教科書/教材	TOEIC L&R TEST ヴォキャブラリー徹底演習―全パート対応―（古家聡 他著．三修社）		
担当教員	菅野 智城		

到達目標

TOEIC®スコア400点以上を保持し、最終的に500点に到達することを目指す。TOEIC®に取り組むにあたり、学習上必要となる語彙、文法の増強を図る。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 英語の語彙・文法・表現を身につける。	英語の表現を身につけ、状況や話の流れに応じて内容を的確に把握することが出来る。	英語の語彙・文法・表現を身につけ、ある程度把握ことが出来る。	英語の語彙・文法・表現を身につける事が出来ない。
評価項目2 解答への適切なアプローチを身につける。	TOEIC®形式の問題解答にあたり、根拠を明確にして、解答することができる。	TOEIC®形式の問題解答にあたり、問題内容をある程度理解して解答することができる。	TOEIC®形式の問題解答にあたり、問題の内容を理解できず、解答することができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	TOEIC®スコア400点以上を保持し、最終的に500点以上に到達することを目指す。TOEIC®に取り組むにあたり、問題形式に慣れ、限られた時間で解答できることが学生には求められる。そのために必要となる語彙、文法の増強を図る。
授業の進め方・方法	１回の授業ではテキストの内容とTOEIC®形式の練習問題を扱う。テキストの内容は、語彙・文法等の基礎的な学習内容と、TOEIC®の問題形式から成る。学生の皆さんの基礎力をを固めるために文法の学習も加える。問題の形式・内容、英文の構造、内容について受講者の理解を確認しつつ解説を行う。授業内の一定時間を用いて単語テスト、TOEIC®に対応する練習を行う。また、補助教材等を用いて様々な角度からの英語に触れるアクティビティを取り入れる。授業の進度や展開によって若干の変更があり得る。
注意点	語彙に関する項目については、あらかじめ予習してきてください。分からないところはそのまま放置せず、遠慮なく教員に質問に来てください。辞書がなければ何も出来ないに等しいので、授業には辞書を必ず持参すること。

事前・事後学習、オフィスアワー

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	Lesson 1: 重要ヴォキャブラリーの確認，演習問題 Part 1-7	動作を表す-ing形（進行形）に慣れる。 主語と時制の基礎を理解する。
		2週	Lesson 2: 重要ヴォキャブラリーの確認，演習問題 Part 1-7	主語と時制を手掛かりにできる。 動詞の原形，未来の表現について理解する。
		3週	Lesson 3: 重要ヴォキャブラリーの確認，演習問題 Part 1-7	会話の場所と人を理解できる。 ビジネスレターの形式と内容を把握できる。
		4週	Lesson 4: 重要ヴォキャブラリーの確認，演習問題 Part 1-7	放送の場所と目的を聞き取る。 対象者，目的，具体的内容を理解できる。
		5週	Lesson 1-4の復習，文法事項の確認	
		6週	Lesson 5: 重要ヴォキャブラリーの確認，演習問題 Part 1-7	前置詞を用いた位置関係を理解できる。 前置詞の意味と使い分けを理解できる。
		7週	Lesson 6: 重要ヴォキャブラリーの確認，演習問題 Part 1-7	意味のつながりで英語の質問内容を理解する。 質問文と回答の文脈をつなげる。
		8週	Lesson 7: 重要ヴォキャブラリーの確認，演習問題 Part 1-7	電話をかけた人とその要件を聞き取る。 商品の広告文を使って，その内容を把握する。
	2ndQ	9週	Lesson 8: 重要ヴォキャブラリーの確認，演習問題 Part 1-7	相手に求める行動を聞き取る。 目的，依頼内容，同義語を理解する。
		10週	Lesson 5-8の復習，文法事項の確認	
		11週	Lesson 9: 重要ヴォキャブラリーの確認，演習問題 Part 1-7	写っているものの細部を聞き取る。 名詞を正しく言い換える。
		12週	Lesson 10: 重要ヴォキャブラリーの確認，演習問題 Part 1-7	了承するか断るかを聞き分ける。 単語の形で品詞を見分け，正しく使う。
		13週	Lesson 11: 重要ヴォキャブラリーの確認，演習問題 Part 1-7	会話の中で，話者の抱えている問題を把握する。 説明書・保証書の要点を把握する。
		14週	Lesson 12: 重要ヴォキャブラリーの確認，演習問題 Part 1-7	放送の具体的な情報を聞き取る。 ダブルパッセージの読み方を身につける。
		15週	Lesson 9-12の復習，文法事項の確認	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	

			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合

	試験	学習状況・態度	小テスト・課題	合計
総合評価割合	70	10	20	100
基礎的能力	70	10	20	100